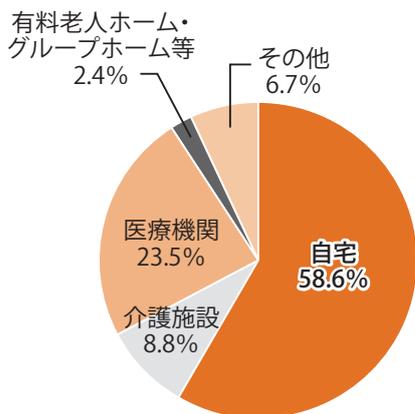


●将来、人生の最期を迎える場所として、希望する場所はどこですか。



自宅を希望する人の多くが、「住み慣れた居住の場がいい」との理由でした。一方、「家族に迷惑がかかる」との理由で自宅を希望できない人もいます。

希望を叶えるために、みなさんができること

かかりつけ医、かかりつけ薬局を持つ

市民向けの調査では、かかりつけ医がある人は約5割でした。かかりつけ医は、白頃からの健康状態をもとに、生活に根差した治療や適切な専門医の紹介、医療・介護の連携役となって在宅生活を支えてくれる大切な存在です。

また同調査で、かかりつけ薬局がある人は約3割にとどまりました。飲み合わせなど適切な薬の使用について相談ができるので、薬局もかかりつけを決めることをお勧めします。



在宅医療と介護のサービスを知る

いざというときに備え、在宅医療と介護のサービスについて知ることも大切です。市では、講演会や講座を開催しています。

また、市内の医療と介護の関係機関やサービスを記した「在宅医療・介護連携のための市民向けマップ【医療編】【介護編】」を作成し、高齢者サポートセンター等での配布、市公式ホームページへの掲載を行っています。

在宅医療や介護について困ったときは、高齢者サポートセンター(地域包括支援センター)をご活用ください。



▲市民向けに配布している、在宅医療と介護マップ

人生の最期をどう生きるかを考える

自分にふさわしい生き方、最期の迎え方、そのための準備などを考え、家族などとよく話し合い、みんなの気持ちをひとつにしておくことが大切です。医療と介護の関係者は、その望みに寄り添い、一緒に在宅生活を支えます。



▲市民向け講座「人生の最期まで自分らしく生きるために」